

少人数の良さを生かして

全国へき地教育研究大会青森大会



車力中の公開授業

「北のまほろば青森で ともに紡ごう！ 新たな時代の豊かな学びを」をスローガンに、10月13日から2日間、第65回全国へき地教育研究大会青森大会が開催され、全国各地のへき地校の校長、教員ら約1300人が参加しました。

最終日の14日には、県内9つの小中学校で分科会が行われ、つがる市では車力小と車力中の2校を会場に、233人の教員らが公開授業を視察。複式学級を含む各学年の授業や、全学年での集団活動を通じた学び合いなどを見学しました。車力中で行われた「合唱づくり」を視察した参加者は「グループリーダーの生徒が自分の言葉で仲間にアドバイスし、グループを引っ張っている姿が素晴らしい」と話していました。公開授業の後は、分科会の研究協議を実施。両校がそれぞれ研究しているへき地小規模校・複式学級の特性を生かした指導の実践や課題などについて発表され、参加した全国の教員らと意見を交わしました。



全国の教員らも参加した車力小の「全校問答ゲーム」



研究の成果や課題について意見を交換

防災習字作品入賞者発表

秋の火災予防運動（10月17日～23日）の一環として、消防本部では防災に関する習字作品を募集。市内小学校から244点が寄せられ、金賞から銅賞まで優秀作品30点が選ばれました。全応募作品は10月17日から23日までつがる市立図書館前イベントスペースに展示され、火災予防運動に役立てられました。

入賞者は以下の通りです。（敬称略）

	2年生「ほのお」		3年生「はしご車」		4年生「火の用心」		5年生「自然水利」		6年生「初期消火」	
金 賞	會 津 実 咲	牛 湯	高 橋 才	瑞穂	高 橋 大 翔	向陽	工 藤 純 太	柏	小笠原 欧 志	向陽
銀 賞	佐々木 芭 琉	柏	木 村 修 花	富 范	小見山 莉 奈	稲垣	鈴 木 真 琴	稲垣	越後谷 琉 聖	向陽
	川 村 快 斗	向陽	新 谷 仁 那	柏	太 田 華 心	向陽	工 藤 祥 太	柏	野 呂 彩 乃	向陽
銅 賞	尾 野 芽衣菜	牛 湯	成 田 凜 彩	牛 湯	小笠原 翔 煌	向陽	秋 元 七 虹	稲垣	高 橋 夏 姫	富 范
	佐々木 杏 紗	牛 湯	白 戸 恒 宇	穂波	三 上 晴 香	柏	野 呂 実 里	瑞穂	長谷川 翔 音	穂波
	永 田 彩 仁	森田	高 橋 善	向陽	三 橋 春 歌	瑞穂	新 岡 幸 心	瑞穂	古 坂 みなみ	柏



つがる市立図書館 2カ月で来館者10万人到達

10月2日、つがる市立図書館の来館者が10万人に到達し、来館10万人達成セレモニーが行われました。この日10万人目となったのは深浦町の主婦・山崎純子さん(33)で、5人の子とも来館。セレモニーでは、館長を務める葛西教育長から三女の杏さん(6)に記念プレートが手渡され、つがる市産新米や図書券などの記念品も贈られました。山崎さん親子は、買い物ついでに2週間に1回程度利用しているとのこと、純子さんは「10万人目と聞いてびっくり。児童図書コーナーの明るい雰囲気子ども連れでも入りやすく満足しています」と話していました。

7月29日の開館から約2か月での10万人到達に葛西館長は「予想より早く10万人を達成できたのは、図書館を待ち望んでいた市民の声が現れたものだと感じている。今後も利用者の要望に応じていきたい」と語りました。



記念プレートを受け取る三女・杏さん

地域に根差した伝統を継承

市内各地で継承されている伝統芸能を一堂に会して披露する「つがる市伝統芸能保存フェスタ」が10月2日、松の館で開催され、約200人の市民らが民俗芸能の多様さや奥深さを堪能しました。これは、伝統文化の振興を目的に市伝統芸能保存協会(花田了会長)が主催しているもので、今年で12回目となります。

つがる市登山囃子保存会による登山囃子でフェスタがスタートし、続いて三方荒神鹿島獅子保存会、ホーハイ節保存会、弥三郎節保存会、木造甚句保存会、出野里獅子踊保存会がそれぞれの伝統芸能を発表。また、今年は盛藤吉さん(森田)による正調弥三郎節の独唱や、特別出演の階上町田代えんぶり組による田代えんぶり



三方荒神鹿島獅子保存会(育成小学校)



特別出演の階上町田代えんぶり組

地域振興を広い視点で考える

農村振興と国土経営ルーラルミーティング「つがる地域振興フォーラム」が10月11日、松の館で開催され、約400人の市民らが地域の振興と発展について考えました。これは、「農業農村の振興」について農業・環境・観光・教育・雇用という幅広い視点から分析した研究結果や現状などを紹介し、今後の地域振興のあり方などについて地域住民と共に考えることを目的に国土経営研究会(森田昌史会長)が主催したものです。

フォーラムでは、各分野の専門家がそれぞれの視点から、地域資源の見直しや有効活用について話題を提供。最後に、つがる市の現状を踏まえながら会場全体で対話型の検討会が行われ、市民からは「心の豊かさ」と安心が実感できるまちづくりが必要」などと意見が出されていました。

つがる地域振興フォーラム



話題提供する郷土史研究家・福士光俊さん